人舁之、經神仙、無名、明義、仙華等門、自長橋上進之南廊小板敷、不給祿、近例立畫御座孫廂、次大舍人、進御杖六十束、式云、曾波木二束、比々良木、牟保許、棗、桃、柏、各六束、已上二株爲束、燒椿十六束、皮椿四束、黑木八束、已上四株爲束、此中有五大杖、以紙裹其頭、又半分以下同以紙裹之、付內侍所、女官傳取入自仙華門、經長橋南廊小板敷、內侍取之立夜御殿南戶內面東西壁下、近代令女官立之失也、件案掃部置之、次左右衞府進御杖、其儀同上、○中略　次作物所進卯杖、自去年十二月十八日、彼所別當藏人始行事所作之、其料物成內藏請奏、奏下、羅蝎紙墨雜冊金銀絲一絢等自納殿請之、案二脚之上置小臺、其上置洲濱、其上作奇岩怪石、嘉樹、芳草、白砂、綠水、其作御生氣方獸形、令合卯杖、生氣在離作馬、生氣在坤作羊、不作猿、生氣在兌作鷄、生氣在乾作猪、不作犬、生氣在坎不作鼠、尋養者方作馬、生氣在艮作牛、不作虎、生氣在震作兎、生氣在巽作龍、不作蛇、行事藏人以下舁之自仙華門舁上、立畫御座廣庇案等、返給所、他案返內侍所、本所各請之、造物等或有御前召、若當節會日、大舍人寮兵衞等卯杖立外辨、內辨奏事由、御出以前付內侍所、東宮卯杖又當節會者、節會以前進之、代人必不然、又案弘仁式、立南殿簀子敷云々、若准之雖清涼殿可立簀子敷歟、但清涼殿者有廣庇、仍可異南殿歟、可尋、

〔建武年中行事〕卯日○正月　にあたれば卯杖の奏あり、六府杖をたてまつる、つくも所生氣の方の獸のすがたを作て、卯杖を托はす、樣々の物つくり物あり、臺盤所に奉る、中宮春宮おなじ、春宮より宮司を使にてたてまつらる、藏人祿をたまふ、六府たてまつれる卯杖をとりて、ひの御帳、夜のおとゞの御帳、四のすみにたつるなり、

〔公事根源正月〕御杖　上卯日

持統天皇三年正月の卯日、大學寮より是を奉る由日本紀にあり、仁壽二年正月に、諸衞祝杖を獻じて、精魅をおふと見へたり、是を以て惡鬼を拂ふ心地なり、作物所よりすはまを造物にして、其に岩ほの中に、御生氣の方の獸をつくりて、卯杖にあはしむ、たとへば生氣東にあらば兎、南にあらば馬なるべし、臺盤所におかる、延喜式に正月卯日、兵衞督以下參て御杖を奏する儀有、色々の